

食物アレルギー・ケアのためのクラウドサービス

アレルギー・チェック

ガイダンス ver 2.0

導入のすすめ

1. はじめに
2. アレルギー物質表示の現状
3. 目的と効果
4. サービスフロー
5. 二次元コードと読取アプリとの動作相関
6. メリット

2019年3月1日
株式会社アップリンク



1. はじめに

食物アレルギーの有病率は年々増えているといわれており、乳児の10人に1人が有病者という統計もある。

加齢とともに有病率も下がってはいくものの、アナフィラキシーショックなど重篤な症状に陥り命を落とす人も毎年10名弱に上り、無視できないリスクである。

本人はもとより食物アレルギー罹患者を家族に持つ者、特に乳幼児の罹患者を子に持つ母親にとって、普段口にする食品に対するケアはいくらしてもし過ぎるはことはないと言っても過言ではない。

しかし、実際にケアしようとする、流通する加工食品のうち普段手に取る可能性があるものだけでも、個人差はあるだろうが、おそらく数十以上にのぼり、それら全てのパッケージからアレルギーの原因物質(=アレルゲン)の含有の有無を読み取るだけでも相応の時間と労力を要することになる。

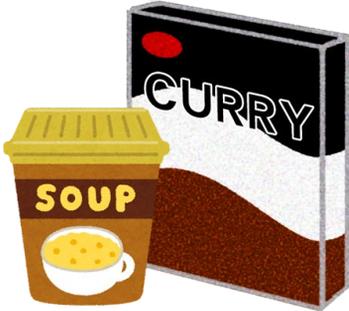
例えば普段口にするものは特定の商品に限定するなどしてリスクを回避していても、やむを得ず他の商品を手にせざるを得ない場面や、いつもの商品でも改変や生産の都合上原材料が変わる可能性は排除できず、やはりアレルゲンに対するケアは怠るべきではない。



2. アレルギー物質表示の現状

現在、食品表示法によりあらかじめ箱や袋で包装されている加工食品と缶や瓶詰め加工食品については、必ず表示されるもの「特定原材料」7品目と、表示が推奨されている「特定原材料に準ずるもの」20品目が既定されている。

あらかじめ箱や袋で包装されている加工食品



缶や瓶詰め加工食品



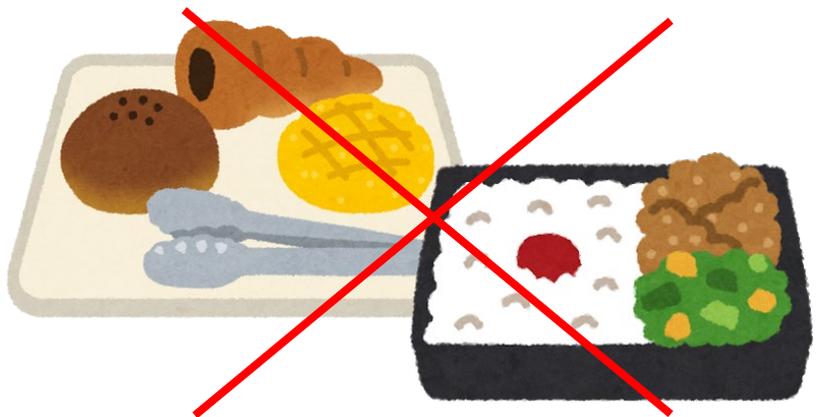
特定原材料
乳
卵
小麦
そば
落花生
えび
かに

特定原材料に準ずるもの	
鶏肉	オレンジ
豚肉	りんご
牛肉	バナナ
さけ	もも
さば	キウイフルーツ
あわび	大豆
いか	ごま
いくら	くるみ
ゼラチン	カシューナッツ
まつたけ	やまいも



しかし、千差万別のパッケージに小さな文字で印字されたこれらの品目表示を即座に読み取することは艱難で、ストレスともなる。

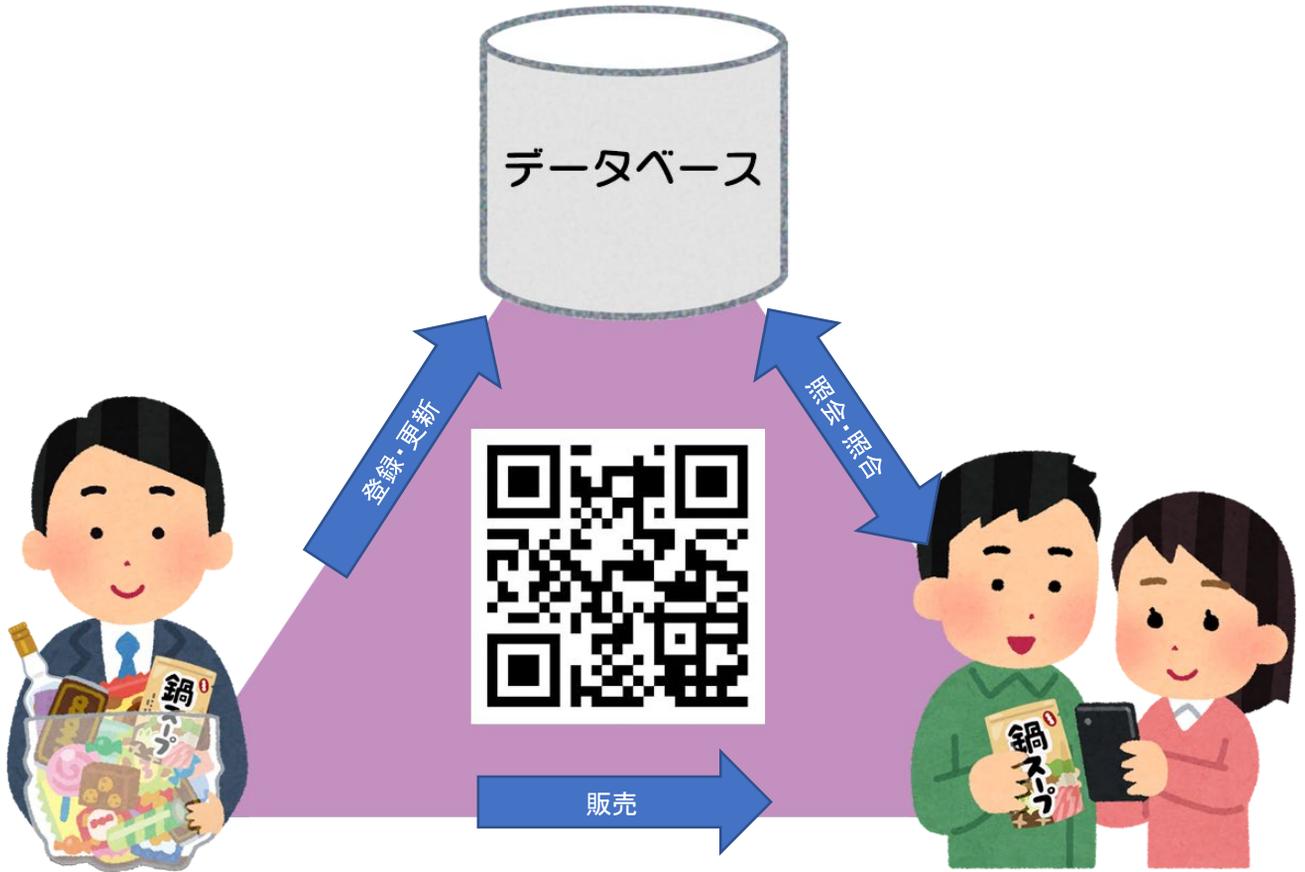
また、現在は店頭で計り売りされる惣菜・パンなどその場で包装されるものや、注文して作るお弁当などは、おそらくはその展示や包装の観点から表示義務からは除外されており、ケアする側の観点からは十分とは言い難い。



3. 目的と効果

前述のアレルギー物質表示の現状を鑑み、食物アレルギー罹患者やその家族が日常的により簡便にアレルギーのケアができることを目的とし「アレルギー・チェック」では以下の要件を実装する。

1. 商品毎の含有アレルギーをクラウド上のデータベースで登録・管理する
2. 各々の商品データへのアクセスをQRコード等の二次元コードとして規格化する
3. 消費者はスマートフォン等で商品の二次元コードを読み取り、即座に照会可能とする
4. 本システムをクラウドサービスとして食品メーカー等の企業に提供し、商品データの管理を委ねる



上記の要件の実装により以下の効果が期待できる。

表示をQRコード化することで媒体をパッケージに頼らず、例えばラベルシールとして貼ることで対応でき、これまで表示義務の外にあった食品群にも対応できるようになる。あるいはまた、メニューに併載するなどすれば外食産業にも適応範囲を拡大することが可能となる。

このように消費者の利便性が高まることは勿論だが、生産者側も商品改変は勿論、急な仕入れ変更に伴う素材変更などにも即座に対応可能となり、顧客信頼度向上への貢献やコスト削減にも期待できる。

4. サービスフロー

■ 契約時



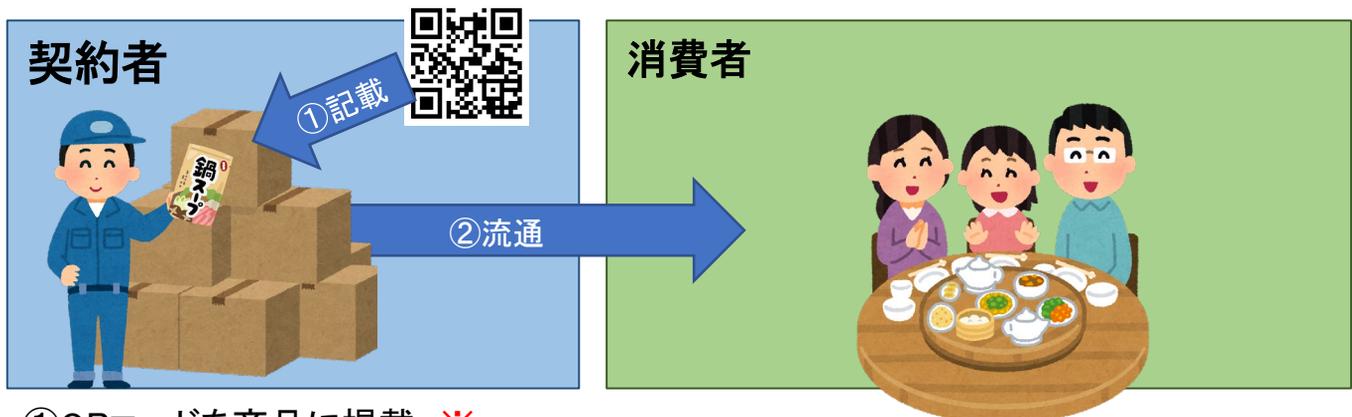
- ① 利用に際して契約を取り交わす
- ② 契約情報をアレルゲン・チェックに登録
- ③ 契約者に対しIDとパスワードを付与

■ 製品登録時



- ① アレルゲン・チェックにログイン
- ② アレルゲンをはじめ商品個別の情報を登録
- ③ 商品毎に発行されたQRコードをダウンロード ※

■ 製造時



- ① QRコードを商品に掲載 ※
- ② 商品を市場に流通

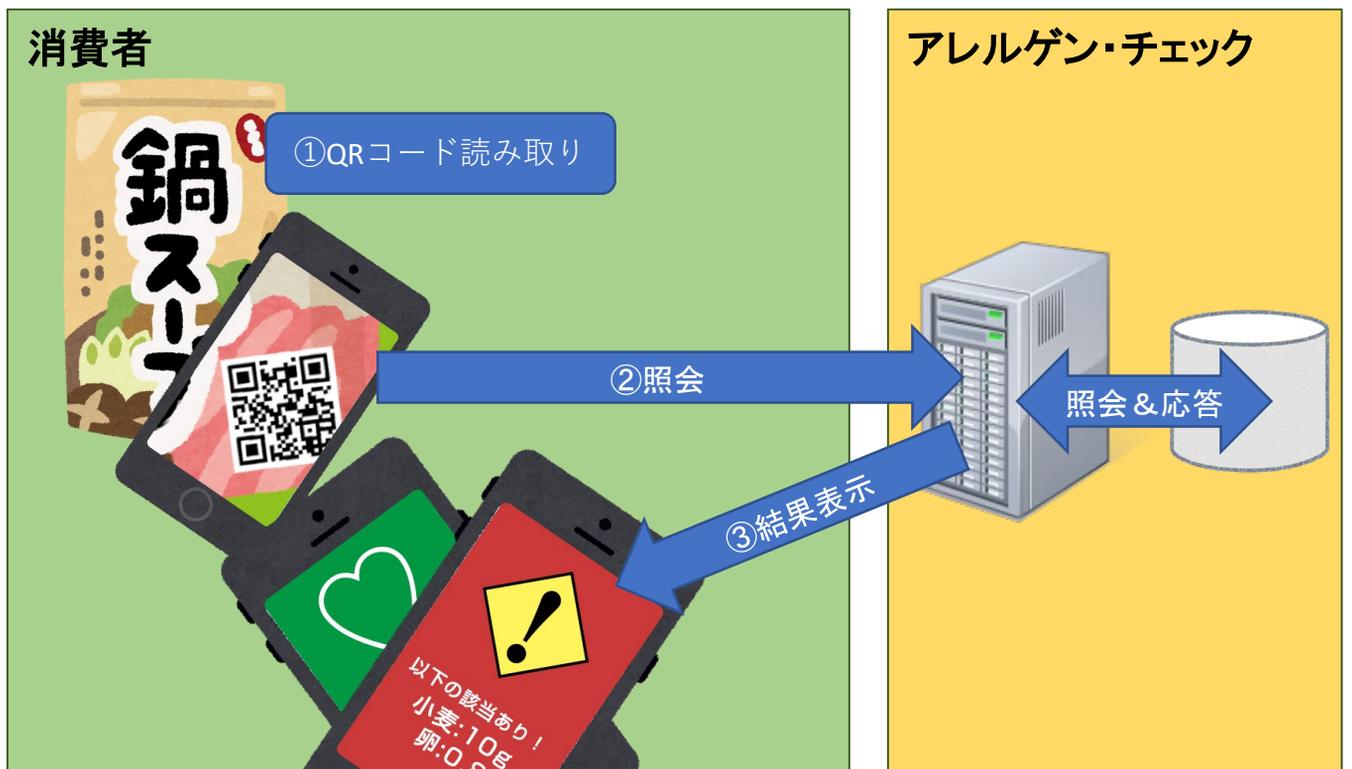
※既にバー(JAN)コード取得済の商品についてはバーコードで対応可能

■ 消費者利用開始時



①専用アプリをダウンロードし、アプリにアレルギーを登録 ※

■ 消費者利用時



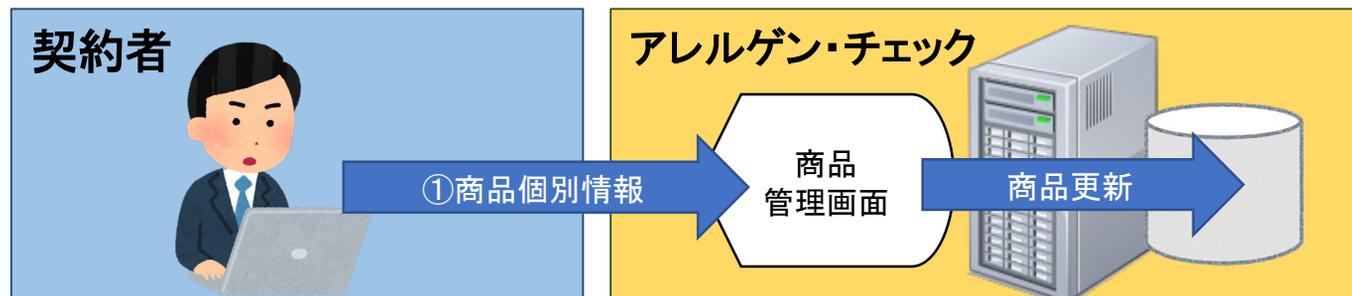
①商品からQRコード(またはバーコード)を読み取り ※

②アレルギー・チェックに対して照会

③照会結果を表示 ※

※専用アプリ以外の汎用的なQRコード読取アプリでも利用可能

■ 内容変更時



①アレルギー・チェックにログインし、該当商品の情報を更新

5. 二次元コードと読取アプリとの動作相関

読取アプリ 二次元コード	QRコード読取 汎用アプリ	アレルゲン・チェック 専用アプリ
バー(JAN)コード	①✗ 未対応 (単にコードの数値を表示)	③◎ 予め専用アプリに登録しておいたアレルゲンとのマッチングを行い、その結果を表示する
アレルゲン・チェック用 QRコード	②○ 食品に含まれるアレルゲンを一覧表示 (マッチングは行わない)	



6. メリット



企業が嬉しい



消費者が嬉しい

1. 製造者によるデータ管理

→ 第三者が介在せず信頼できて安心



2. オンライン管理

→ 即時反映なので新製品・日替わり商品にも対応



3. QRコード併用

→ バー(JAN)コードを持たない商品にも対応



4. 汎用アプリでもOK

→ 専用アプリ必須ではないから利用の敷居が低い



5. 結果フィードバック

→ 消費者のアレルゲン状況が把握できる



6. 素早い動作と判別し易いビジュアル

→ 店頭・店内でも次から次へとチェック



7. 多言語対応 (※2019年3月現在)

→ 日本語が理解できない方でも利用可



8. Halal表示対応

→ データ登録だけでハラール表示対応可能

